

広島市小社研会報

令和4年9月～令和5年3月 第267号

研究主題

社会をみつめ、未来を問い続ける社会科教育の創造
—教材の意味からせまる授業づくりを通して—

年明けから新型コロナウイルス感染症にかかる世の中の動きや、それに関わる学校生活の様式が変わりつつあります。5月8日から感染症法上の位置づけを「2類」相当から季節性インフルエンザと同じ「5類」に引き下げること、マスクの着用については個人の主体的な選択を尊重し個人の判断に委ねられるようになること、卒業式では児童生徒と教職員はマスクなしを基本とすること等、ここ最近の様々な動きを見るにつけ、各校様々な判断を迫られていることと拝察します。

次年度は研究授業や研究協議会もある程度コロナ禍以前のように実施できるのではないかと期待の中、これまでの広島市小社研の財産を引き継ぎながら研究行事・事業計画に会員皆で取り組んでいきたいと思えます。

第2回研究会の様子

広島市立牛田新町小学校 寺本 美代子

第2回の研究会では、河内小学校 望月先生の「『HIROSHIMA』を作る—湯来から世界へマルニ木工の挑戦—」の実践発表を視聴させていただきました。

望月先生は、児童の実態を把握した上で、児童が社会科の学習に、より主体的に取り組めるよう、授業を考えられていました。

第5学年「我が国の工業生産」の学習で、教科書では自動車をつくる工業・運輸と貿易を学ぶところ、「マルニ木工」は、物づくりと国内のみならず海外にも販路を広げていることから工業生産と輸送と貿易と一緒に学習できる利点があると考えられました。更に、社会生活経験が乏しいといった児童の実態から地域に本社工場のある「マルニ木工のHIROSHIMA」を教材として扱うことで、児童が社会的事象を身近に感じ、少しでも実感を伴った学習に主体的に取り組ませたいという願いをもたれていました。

今回の発表は、

- 1 研究主題との関わり
- 2 研究の視点

3 研究の実際

4 研究の成果と今後の課題という流れで話をされました。

単元構成を考えられる上で、広島市の社会科の研究主題である「社会を見つめ、未来を問いつける社会科教育の創造」と関連付けると、世界的な企業アップル本社だけではなく、県内の様々な場所に設置されている HIROSHIMA を通して、日本の工業の未来と課題が見えてくると考えられたそうです。また、副題と関連付けて、マルニが一時経営危機に瀕したことから、それを乗り越え経営回復した基となる戦略が、工業の問題とその解決、運輸や貿易の在り方を学ぶのに適した素材であると考えられました。

研究の視点で挙げられた①地域教材の活用で話されたことが、第1時の板書や学習問題の設定に生かされたこと、また、②見方・考え方を働かせるための単元展開と問いの設定につながっていることが分かりました。また、児童の予想から調べる計画を立てられたことや更に売り上げの折れ線グラフを提示することで、危機的状況を打破するためにマルニのとした戦略を調べるきっかけづくりになっていることもわかりました。

このように、学習問題を設定されるまでに行った資料の提示、そこから出された児童の疑問や予想、それを基に設定された単元を貫く学習問題、それを解決するための学習計画が丁寧に説明されていて、大変勉強になりました。

本時の8時間目では、マルニ木工の人たちは、何を大切に家具づくりをしているかを考える授業でした。ここでは、これまで学習したことを基に、キーワード（人と人との繋がり・技術・値段・消費者）を使ってランキングを考えるというものでした。児童一人一人が根拠をもってランキングを考え、議論するという学習は、まさに対話的な学びになっていると思います。更に、ゲストティーチャーの話聞くことで、考えを広げ、深い学びにつながったと、後の権藤先生の講話からも分かりました。

最後に、成果と課題では、地域教材の良さとゲストティーチャーの話が効果的であったこと、第9時で行われた一般化が大切であったことを話されていました。社会科で大切な概念的知識の獲得が行われたということです。「マルニを学習するのではなく、マルニで学習したことを他の企業にあてはめ、日本の工業が見えてくる。」という言葉に、望月先生のこの単元を開発された意図と、児童に学ばせたい目標が凝縮されていたように思います。単元開発するには、教師がどれだけ教材に向き合うか、どれだけ調査をし、理解を深めるか、どれだけ情熱をもって指導していくか、という当たり前ですがとても大切なことを教えていただいたように思います。今年度は、なかなか授業を見せていただいたり、このように実践発表を聞かせていただいたりすることが少なく、残念に思っていました。今回、動画を視聴する機会をいただき、ありがとうございました。これから、また、しっかりと社会科に向き合っていきたいと思います。

第3回研究会の様子

広島市立井口明神小学校 荒谷 恵志

第3回研究会 A 社会科部会は、リモートで行われました。

実践発表をしてくださったのは、矢野南小学校の市位和生先生でした。市位先生は、これまで、「自然災害から暮らしを守る」単元の研究を重ね、災害を扱う授業に造詣が深い

先生でした。実際に大雨による大きな自然災害が起こった地域に転勤されて、4年生担任となり、これまで積み重ねてきた知識を裏付けに、最前線で実践された授業の報告だったと言えます。

広島大学大学院の永田先生が、市位先生の実践の大切なポイントをまとめてくださったので、報告する際に引用させていただきます。

まずは、であう場面での、「過去の災害とであい向き合う丁寧な手立ての有効性」です。これは、市位先生のこれまでの研究の積み重ねに加え、赴任した学区の様子や歴史を丁寧に調べ、教材研究を積み重ねたことにつきます。そして、教材研究したことから、子どもたちの学びに役立つことを選び出し、効果的に活用していたところが、さすがでした。その際に、実際に被災して学校に避難した児童や地域の方がおられることもふまえ、配慮も欠かしていませんでした。

次に、ふかめる場面での「本単元でつかんでおきたい確実な内容展開の有効性」です。これまでの研究に基づいて、市役所が準備していることや、災害が起こったときの市役所や町内会の動き、公助・共助・自助の必要性などを、「どのようにして自分達の大切なものを自然災害から守っているのだろうか？」という単元を貫く学習問題を追究するために、適確な配列にされていました。

いかず場面では、「本単元でつかんだ内容と方法の応用への有効性」を追究し、本時では、「Aさんのためのひなん計画を作成しよう」を学習問題にしていました。レジュメにもありましたが、

- ・それぞれの役割を果たすことが必要。
- ・危なくなったらすぐ避難。
- ・市役所もいろいろやってくれていることを、私たちも知ることが必要。
- ・地域の人と仲良くすることが大切。「ご近所で助け合う」

という、基本だけれど、とても大切なことを、子どもたちの声で、授業を構築していったのは、さすがでした。

永田先生は、問いの中の主語が大切だというお話もしてくださいました。AIが発達し、多種多様な世の中で、主語は誰なのか、より一層大切になっていくと予想されます。永田先生が書かれた「今後への期待」は、社会科部会員みんなに向けられたものではないかと思えます。自分の実践の中でも、指導案の中で「主語」がしっかり認識できているか、気を付けてみたいですね。

実践発表後に江波小学校で行われた代表幹事会では、来年度の活動についても話し合われました。来年度は、通常通りの形式に戻す方向だそうです。来年度の第2・3回研究会Aは、授業実践が一番望ましいが、今回のように授業を録画しての実践発表もありにしようということになりました。市位先生の発表は、内容だけでなく、授業の実践発表の形式としても、先駆けとなるものでした。

お忙しい中、今回の発表の準備をくださった市位先生ですが、さらに、来年度の県大会で広島市を代表して発表して下さるそうです。今回の実践を聞かせていただき、県大会でも、素晴らしい発表になること間違いなしだと思います。市位先生、ありがとうございました。そして、よろしく願いいたします。

来年度から、社会科部会の活動も本格的に再開し、令和9年度に迫った全国大会に向けての活動も活発になると思います。コロナ禍に個々の会員が、温めていたアイデアや実践をしっかりと出し合って、子どもたちも教職員も学びを深めていけたらと思います。

1/27(金) 社会科同好会の様子

広島市立五日市観音西小学校 沼尻 理恵

1月27日(金)、西区民文化センターで第3回社会科同好会が開催されました。5年後の全国大会に向けて、広島大学大学院 永田忠道先生のお話をうかがえるということで参加いたしました。

お話は、永田研究室ご出身の五月が丘小 胤森信吾先生との対談形式をベースに、参加者の先生方への質問や前回大会の振り返りを織り交ぜながら進められました。その中で、私なりに感じたことを3点にまとめ、報告いたします。

1点目は、厳しい現実の中で、大きな研究会を実現していくために、会員としてできることは何か、という点です。対談冒頭で、若手の胤森先生は、「教材研究の時間が足りない。」と吐露されていました。お若い先生でなくても、どの現場も人手不足や時間不足に頭を抱えているのが現実であると思います。会場校に負担がかかりすぎないように自分にできることを考えていきたいと思いました。また、その後永田先生が挙げられた「前回大会で会場校3校中の1校が教科書教材を活用していた」ということも一つの方策になり得ると感じました。

2点目は、今まで積み重ねてきた「広島らしさ」を大切にしていきたい、ということです。先輩方から受け継いできた「であう・ふかめる・いかす」学習過程や学習問題につながる教材との出合わせ方、「いかす」場面での3つの基本的な学習活動パターン(①社会参画型②活用型③振り返り型)こそ「広島らしさ」なのだと思います。永田先生は今年度の第1回・第2回同好会で提案された米山先生と市位先生の2実践の教材を例に挙げ、「広島らしい教材は、地味だけど粘りのあるもの」と評価されました。広島市小社研が積み重ねてきたことを誠実に続けていくことに、永田先生から背中を押していただいたような気がしました。

3点目は、「広島らしさ」にどこまでを含めるのか、ということです。研究部 岡本典久先生が「諸先輩から『社会科は内容教科である』と教えられてきたが、現在の社会科教育もその考え方なのか。」と質問されました。それに応え、永田先生から社会科を内容主義・方法主義の2つの軸で類型化した図が示され、限定社会科と限定解除社会科について説明していただいたり、社会科教育学研究の流れを解説していただいたりしました。その後再び、「いかす学習活動に重点を置く社会科教育を推進していくと、内容教科の色合いが薄くなっていくが、これからの広島の社会科は、その点をどのように考えていくべきなのか。」という岡本先生からの問いかけがあり、自分なりの答えを出せなかった私は、皆さんどのようにお考えになったのか大変興味があります。「内容」を大事にしてきた印象の強い広島の社会科ですが、そこも「広島らしさ」として進めていくのか、それとも変化していくのかという点が気になりました。

会の終わりに際し、佐藤健校長先生が「個人的なテーマは『継承と発展』である」と述べられました。継承していくべきものは何か、発展させてくべきものは何かを会員としてしっかり見極めていきたいと感じる会となりました。

「社会科授業づくり基礎講座」の様子

「社会科授業づくり基礎講座」代表 広瀬小学校長 尼子 博崇

11月26日(土)教育センターにて、第2回「社会科授業づくり基礎講座」が開催されました。岡本典久先生(伴小), 米山尚伸先生(伴東小), 荒谷恵志先生(井口明神小)の3名の先生方に講師として参加していただきました。当日は11名の先生方の参加を得て、講座が進められました。

岡本先生と米山先生は、各学年ごとに資料提示の方法や自作の教材を紹介されました。主に、教科書教材の活用法や、教材作成の視点、授業のネタづくりの視点等についてのお話でした。

荒谷先生は、担任学級児童へのアンケート「社会科で楽しいと思うときはどんなときですか」の結果をもとに、

- ①地図帳の活用法
- ②デジタル教科書の活用法
- ③授業で使う小ネタの作り方

の3つの視点で授業づくりについてお話しされました。

3名の講師の話の後、参加者の社会科授業における悩みについて、具体的に答えてもらいました。

以下は、参加者の声です。次年度もこのような声に是非答えていきたいと考えています。

- 前日も思ったことですが、先生方の情報量や授業をつくっていく上での工夫の多さに驚いています。勉強になります。STUの曲、CM、新聞など、子どもたちが見たことのある、知っているものから広げて授業をすることで、おもしろい授業になるということが改めて分かりました。普段から、色々なことに目を向けて情報を得ておくことが大切だと思ったので、これから意識していきたいと思います。低学年でも、町、地域と関わる時に地図を使ってみたりニュースを取り上げてみたりと活用していきたいです。本日はありがとうございました。
- 本日はお忙しい中、ありがとうございました。社会科授業をおもしろく、より分かりやすくする方法を、たくさん知ることができました。他の教科でも活用できる(リズムカルな音楽や身近な話題、導入など)かと思いましたので、2年生担任ですが、取り入れたいと思いました。
- 本日は、分かりやすい講座をありがとうございました。資料の扱い方をいつも悩みます。知識がないので広がりがなく、資料について関連することを調べても、学習とのつながりがよく分からなくなったりします。しかし、ニュースや新聞などから小話などをはさもうと思いました。予想を立てさせる際に、資料を使った予想と資料なしの予想の使い分けができず、児童の反応も「見たら分かる」など淡白なものになることが多い。導入や単元を通した教材を工夫しないと興味を引くのは難しいと感じました。「おもしろい」授業になるようにネタや資料を集めたいと思います。ありがとうございました。

- 社会科についてたくさんお話を聞くことができ良かったです。普段、子どもたちが身近なこととして捉えられる楽しい授業にする方法が分からず、悩むことが多いです。今日の講座を受けて、具体的な実践例を知ることができて、とても良かったです。自分でネタを集めることがまだ得意ではないので、また具体的な実践例を伺いたいです。まずは、地域のことやニュースから使えるものを探すアンテナを張って生活しようと思いました。ありがとうございました。
- 本日は、ありがとうございました。4年の担任をしているのですが、授業をどのように展開したらよいか、悩んでいました。でも、講座を受けて、子どもたちが疑問をもち、予想して解決することができるように教材研究をしたらいいのだと思いました。3人の先生方のように分かりやすく詳しく教材研究をしたいのですが、どのような資料を使って情報を集めたらいいのか知りたいです。特に、地域の地図や昔の写真等は、どのようにして準備されているのか知りたいです。教科書や地図帳だけでなく、テレビ、新聞、インターネット等から情報を得て、子どもが「おもしろい」と思えるような授業を考えたいです。特に社会科は、日々のニュースから話題を見つけることが大事だと思いました。私自身の、世の中の出来事に対する見方や考え方も、よりよいものにしていきたいです。ありがとうございました。

【あとがき】

タブレット端末が児童一人一人に配付され、調べ学習を進めたり、お互いの考えを交流したりするのも容易になってきました。子ども達にマニュアルは不要。使いながら覚えていくので、あっという間に使いこなせるようになっていきます。有効に活用していけば、便利な学習ツールになることは間違いありません。

けれども調べて終わり、交流して終わり、の学習になってはいないでしょうか。観察授業で校内を回っていると、そのような授業に多く出会います。多様な活用法を探っている段階なので、それも致し方ないのかもしれないかもしれません。

でも大事なことは一人一人の教員の授業力、指導力の向上、定着。確かな授業力があってこそ、タブレット端末の活用です。

原点回帰。授業の中で子どもたちが「考える」ことを大事にしましょう。子どもたちがしっかり「考える」ことができる授業力を私たちがつけていきましょう。

広島市小社研がこれまで大事にしてきた「人間の生き方に学び、考える社会科」を会員皆の共通認識として、次年度はスタートしていきたいですね。

広島市小社研事務局次長 三好 崇之

